

一般質問通告書

【第73回定例会】

多可町議会議長 河崎 一 様
多可町議会議員 廣畑 幸子



受 領 日	番号
平成28年12月2日 午前・午後 4 時 00分	5

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1 デートDV防止授業を中学校でも	町長・教育長
別紙参照	
2. 発達障がいの理解を深めるため小学校でも学習を	町長・教育長
別紙参照	
3.	

質 問 の 内 容

まず、「デート DV」防止授業を中学校でも取り入れるべきと考えますので質問いたします。

「DV」という言葉はご存じの方も多いと思いますが、「デート DV」という言葉は「はて？」と思われる方も多いかもしれません。

「デート DV」とは、交際中の若いカップル間の暴力のことです。「デート DV」では、経済的な依存関係、パートナーの家族との関係、法的な結びつきがないという点で「DV」とは構造的な違いがあります。

一般的な認識は、暴力と言うイメージから、叩く・蹴る・殴るといったことをパートナーから受けるのが「DV」と思われがちですが、それだけではなく、例えば、部活があるや、友達と出かける予定があるのにもかかわらず、既に入っている予定をキャンセルさせてパートナーとのデートを優先させたり、携帯への頻回な電話をして監視を続ける、大切な物を壊される、嫌な呼び方をし続ける、また無視をするなど、暴力と感じていない事も多くあります。

そのような中で、「デート DV 防止ワークショップ」などで、どのようなことが「デート DV」に当たるのか認識ができるようになって欲しいのです。

相手を思いやる、束縛せずに尊重する、これは人権にもつながる事だと思います。

先日、多可高校での「デート DV 防止授業」を見学してきました。生徒たちによる寸劇もありました。講師の先生はわかりやすくお話しになり、またチェック表を使って、気づきの部分を促す授業をされていました。

講師の先生にお聞きすると、中学校からの依頼も増えているとか。お隣の西脇市では、随分前から中学校での「デート DV 防止授業」をされています。

小学校生活から中学校生活は随分環境が変わりますが、高校生活はそれ以上に変わります。是非取り入れて頂きたいと思います。

次に、発達障がいの理解を深めるため、小学校高学年にも福祉授業を取り入れて頂きたいと思い質問します。

小学校での福祉授業は各学校の4年生で、「高齢者の疑似体験」「車いす体験」「アイマスク体験」「点字体験」「手話体験」などいろいろな内容で進められています。また、中学校でもそれぞれに考えた内容をされています。

昨年までは、加美中学校の主に2年生が、発達障がいの学習をしていました。私も何度か見学させて頂きました。講師の先生は「発達障がい」の特性をわかりやすく説明され、なるほどと感心して聞かせて頂きました。

27年3月定例会で、大人の人にも発達障がいをもっと知って頂き、理解を深めて欲しいとの思いで、質問をしました。担当課も努力はされていますが、なかなかだなどとは思っています。

そんな時、随分前の話を思い出しました。ある小学校で発達障がいの子どもがいました。近所の子どもと一緒に登校していましたが、ある日お母さんが登校時に来られました。丁度その時に、発達障がいの子どもがパニックを起こしていました。そのお母さんは、経験がなくこれは大変と騒がれましたが、一緒にいた子どもたちは、「大丈夫だよ。どうすれば良いかわかってるから。」と慌てず対処。そのまま何事もなかったように登校したそうです。日頃から、様子を見ていて知っていた、学習をしていた結果だと思います。

子どもの脳はスポンジのような物とよく聞きます。早い内から知って経験することは大事です。そして、相手を思いやる事や、優しく接することが自然にできる、身につけているということは素晴らしいことだと思います。

小学生と言えども学校生活などなかなか忙しいと思います。また、その中で授業のやりくりは大変であろうとは思いますが、必要なことであると考えます。是非考えて頂きたいと思います。